

2年前から小中一貫校をはじめている三鷹市での経験では、小学生・中学生の交流活動をつうじて、小学生にとって中学生が憧れの対象になっていること、中学生は小学生の面倒を見ようという意識が高まっていることが報告されています。異年齢同士のこうした相互作用は子どもの成長にとって大切なことだと感じます。

小・中学校の先生同士の情報交換がすすみ、子どもを9年間のつながりでもとらえることができるようになるのでは。

子どもの成長を継続的にとらえることは大切です。そのためにも小学校と中学校の先生同士の情報交換を活発にし、何か問題がおきたときには連携して対応に当たれるようにすることは必要ではないでしょうか。

・・・ただし、これらの点は、小中一貫校にしなくても、いくらでもやりようがあるのでは？と感じます。

小中一貫校で心配な点は？

同時に、子どもにとって良くない方向にむかってしまうのではという心配があります。先生の多忙化がすすみ、授業の準備が不足したり、子どもに対応する時間が短くなりはないか。

三鷹市の一貫校では、先生の仕事が週に10時間から数十時間増えたとの報告がなされています。新しい仕組みづくりや会議のために時間がとられ、結局、授業の準備が不足したり、子どもに対応する時間が削られてしまっは本末転倒です。

羽村市教育委員会は人員の補充をおこなうと言っていますが、十分なものになるかどうか保障はありません。

全市的な展開をおこなう際に、隣接校でないため、連携に無理が生じるのではないか。

武蔵野小と3中は隣接しているため、連携はやりやすいでしょう。しかし、1中、2中学区は学校同士に距離があるため、先生や子どもの移動に時間をとられるなど、負担が大

きいのではないのでしょうか。

学校選択制の導入により、学校間・子ども間の競争激化、格差の固定化、地域との連携の断絶などがおきはしないか。

学校選択制は、学校間の競争を生み出して点数至上主義を助長したり、人気校と不人気校が固定化したり、地域と学校のつながりを断ち切ったりと様々な弊害が指摘されています。



小中一貫校が、結果として、こうした混乱を学校教育にもちこむことにつながるのではないかと危惧します。

地域 みんなが参加して、より良い教育をつくっていこう

このほかにも様々な論点があると思います。「中間報告」では、再来年の4月から小中一貫校をスタートさせるとしていますが、実施先にありきではなく、行政・先生・父母・地域住民などが、きたんなく十分に議論できる場を設けることを求めます。

そして、教育の危機がさげられる今こそ、みんながいっしょになって、知恵を出し合い、より良い学校教育の実現めざして力を合わせていくことを呼びかけます。

市のHPに「中間報告」が掲載されています。

西口区画整理を見直し、教育の充実などに予算をふりむけるべき - - 日本共産党羽村市議団の提案

私たちは、まず教育予算の抜本的な増額をはかり、少人数学級の実施や学習サポーターの増員など、教育条件の改善をはかることが大切だと考えています。

そのためにも、羽村駅西口区画整理など、市民の反対が大きく、無駄が多い事業の見直しが必要だと考えています。

今年の3月議会でも、西口区画整理につかう予算のうち1億5千万円を、教育・福祉などにまわす提案をおこないました。

(教育に関わることでは、すべての小学校1・2年生クラスを35人以下学級にすること、小学校1年生の全クラスに学習サポーターの先生を配置する提案をおこないました。年間4600万円の予算で実現できます。)

ご意見などぜひお寄せください。

無料法律相談のお知らせ

6月10日(火)午後1時30分からです。

事前に予約が必要です。お気軽にご連絡ください。

- ・中原まさゆき 554-1163
- ・市川英子 554-1140
- ・鈴木たくや 080-1058-9450



2008年5月25日 No.895
発行 羽村民報編集委員会 責任者 野崎 衷
事務所 電話 579-2132 Fax579-2106